



## 【討論】

経済学部長  
菅沼 隆 氏

○丸山 それでは時間になりましたので、後半、第2部に入りたいと思います。第2部は、これまでご登壇いただいた5人の先生のお話を受けて、立教の教育部局から、また関係部署からということで、1名ずつコメントをお願いしております。まずお一人目のコメンテーターは、経済学部長の菅沼先生でいらっしゃいます。経済学部は正規学部留学生をかなり多く受け入れている教育部局で、さまざまな試みもされていますので、本日は、菅沼先生をお願い申し上げました。どうぞよろしくお願いいたします。

○菅沼 ご紹介いただきました経済学部長の菅沼です。4先生のお話、大変興味深く伺いました。もうすでに私どもの課題が相当浮き彫りになったなと思っているとでございます。【スライド⑦-1】

まずは経済学部の正規留学生の方の受け入れ状況についてご説明をしたいと思います。

まず、簡単に経済学部の紹介をさせていただきます。非常に古い学部です。1907年に創設いたしました。立教大学が大学を名乗ったときに設置された学部でございます。日本の経済学をリードしてきた学部であるという自負をしております。【スライド⑦-2】

現在は3学科体制になっております。経済学科330名、経済政策学科と会計ファイナンス学科が175名、1学年ですね。1学年、この人数を受け入れております。

今、ご紹介にありましたけれども、経済学部それから大学院、経済学研究科の正規留学生の入学状況について数字をお示しいたします。これを見ると明らかな

ように、2016年から学部正規留学生が増えるようになってきました。2017年31名、2018年24名と。31名となると、だいたい学生定員の5%ぐらいということで、いろいろな留学生受け入れ目標に近い数字を経済学部はすでに達成しているということでございます。

どうして増えるようになったのかというと、当然、経済学部として積極的に留学生を受け入れようということで、留学の合格基準を少し緩めたということで、2016年から増えるようになってきました。経済学部はたくさん留学生を受け入れるという評判が立ったからだと思いますけれども、このようにたくさん志願者が増えまして、入学者も増えてきたということでございます。

それ以前は、過去20年くらい、だいたい1年に2人から4人くらいの留学生が入ってきてるというような状況でございました。大学院のほうは、だいたい安定的に3人、4人という外国人留学生が入ってきている。ロシアからの留学生もいるということでございます。**【スライド⑦-3】**

きょうのご説明を前提として、1年生に経済学部がどういう教育を行っているのかということについて簡単にご説明させていただきます。ここに示した科目は、1年生、入学すると全員がとらなければいけない授業、全員履修の科目でございます。

1つは、一番大切な基礎ゼミナールということで、1年かけて授業を展開しております。少人数のクラスでして、20名程度の人数でもって授業を進めていきます。社会科学の文献、岩波新書とか中公新書とか、社会科学の文献をみんなで輪読してレジュメをつくって報告して討論をするということをやります。それと同時に、自分でテーマを決めて、それについて自分で調べて、それで論文を書かせるということを1年次にやらせております。1年の11月ごろになると、だいたい8,000字程度の論文を学生に出させるということをやらせております。その論文に基づいてプレゼンテーションもさせる。論文集なども出しております。

もう1つが情報処理入門といいまして、これはコンピューターのリテラシーを身につけさせるというものでございます。コンピューター教室で、まずは情報倫理、実はこれが一番重要なんですけれども、情報倫理、それからワードプロセッサ、表計算ソフト、それからプレゼンテーションソフトなどを習熟できるようにします。

それから、統計の分析ですね。経済関係の統計のデータを使って、例えば、相

関分析とか回帰分析ですね。回帰分析とか、そうしたところまで1年次に習得できるようにさせております。

もう1つが、経済学ということで、これは学科単位での大規模事業ですけれども、経済学の基礎を身につけることを目的にした科目です。2年次以降の専門教育のために必要な経済学の基礎知識を習得させる。これらが1年次に学ばなければいけない、経済学部生が学ばなければいけない科目だということでございます。【スライド⑦-4】

そういう中で、留学生が急増したということで、経済学部としては、学部の中に国際化推進委員会というものを設置しておりますけれども、そこで継続的に留学生の状況について協議をしてきたということでございます。

特に、何を2017年にやったかといいますと、成績調査。これは留学生の成績状況をGPAというようなポイント制にしたりして詳細に分析をいたしました。それから、留学生と直接一人一人会って、どういうふうに勉強しているのかということについて面接を行いました。それからもう1つは、授業を担当している先生に、留学生の学習状況がどうなっているのかということ、これも詳細にアンケートをとりました。【スライド⑦-5】

まず、その成績調査です。これは先ほどお示した科目以外に、立教大学で1年生が取らなければいけない言語の科目であるとか、全カリといっていますけれども、一般教養の科目であるとか、そうしたものの履修状況です。これを見ると、留学生の中に低単位修得者が一定数、発生しているということがわかりました。それから、一般の学生よりもやや平均成績も低くなっていて、特に、2年次の春学期が、特に日本人学生と比較して成績が悪くなっているということと、全般的に1年生のときよりも2年生に入ってから成績がやや悪くなっているというようなことがわかりました。それから、成績分布のばらつき偏差が大きいということで、非常に優秀な、成績良好の留学生の方もいれば、成績の悪い留学生もいて非常にばらつきが大きいということもわかりました。それから、5つ目ですけれども、低単位修得者は1名を除いて全て男性であったというようなこともわかりました。【スライド⑦-6】

特に留学生全般から聞き取りをしましたが、特に低単位修得者は全員呼び出して、どういうふうな生活をしているのか、どういう勉強をしているのか、そういうことについて話を聞きました。深刻な問題としては、日本人の友人がつくれな



い、少ないと訴える学生が多かったということです。それから、留学生同士のネットワークもあまり持っていないという方も多かったということです。全体として、相談相手がいない、やはり孤立している人がいるということです。

それから、4つ目、これもすごく重要でして、大学に入ると長い日本

語の文章を書く機会が非常に増えてくるんですが、会話はできるんだけど、日本語の長文の作文に苦労しているという実態がわかりました。特に講義系の科目では、論述式の試験、期末試験では日本語で文章を書かなければいけない論述式の問題が多いんですけども、それで大変苦労しているというようなことがありました。

それから、経済学部では、2年生に進学するときに専門のゼミに所属するんですが、その前にゼミの選考があります。当然、合格する学生もいれば落ちる、不合格の学生もいるということで、ここで面接で失敗して、勉強意欲が低下したというようなことがわかりました。**【スライド⑦-7】**

次が、教えている教師から見て留学生の状況はどうなのかということについて調べました。これは、2017年と18年では、実施時期や調査の項目とか方法が若干異なっていますので、直接比較はできません。だいたいこんな感じだということでご覧ください。全般的には、だいたい良好とか普通というふうに答えられた先生が多かったということでございます。6月というとう入学したてですね。11月というともう夏休みが終わって、いろいろな大学生活に慣れてきたというところで、ややだらけているという感じがしなくはないんですけども、そういう傾向があるということです。**【スライド⑦-8】**

それから、1年次の経済学部の科目は3回まで欠席しても大丈夫で、4回欠席すると単位が取れないというルールを設けております。ですから、4回以上欠席というのは単位が取れないということになるんですけども、どうなっているのかというのを見ますと、だいたい出席状況、8割以上の留学生はきちっと出席していると。3回ギリギリというところ、ボーダーラインがこういう数字になっ

ているということです。やはり秋学期、10月、11月になると4回以上欠席という学生が出てきてしまっているということがわかりました。【スライド⑦-9】

先生方に全般の傾向について伺いました。そうすると、非常に優秀、まじめで日本人学生にもいい刺激を与えていると答えられた先生がこのくらいの数値です。それから、日本人学生と遜色ない、ほとんど同じだという回答がありまして、これを合わせると、だいたい60%から80%ぐらいということで、先生から見ると、留学生はよく勉強しているというふうに見えるということです。

あとは、やや難があるがついていけているということですが、秋学期になると、その難さが見えてくるというんですかね。春学期はまだよく先生も見えていないところがあるのかもしれませんが、秋学期になると、その難さが見えてくるというところがあるのかなと思いました。【スライド⑦-10】

それで、全般的な所見ですが、ほとんどの教員は、一般学生と区別しないで対応してきました。あまり全体としては問題を感じていないと答えられた先生が多かったです。日本語の会話に難がある、困難があるというふうに答えた先生も少ないです。

それから、ほかの学生にプラスの効果を与えている事例もあると。例えば、ベトナムからの留学生がいるということで、ゼミの話題も、じゃあベトナムはどうなっているのというようなことで議論が弾んで、日本人学生もベトナムについていろいろ調べたというようなことで、プラスの効果が上がっているという例もありました。

ただ、全体としては、日本語の長文の作文に苦勞をしているということで、秋学期の小論文完成の際に、日本語が正しく書けないで指導に苦勞したと先生自身が答えているというものがあります。

これから見ると、若干、教員からは留学生が抱える困難がまだ十分見えていないのではないかなという印象も持ちました。【スライド⑦-11】

それで、基礎ゼミナール担当の先生方に日本語能力について聞きました。そうすると、日本語能力についてはやはり「まだ日本語にくせがあり細かく添削した」とか、「正しい日本語表現で書き上げるのは難しいのかもしれない。こちらも添削はしたけれども全て修正するのは困難であった」と。それから、「テキストは理解している。日本語のテキストは理解しているんだけど、普段聞きなれない語彙などに対してとまどう場合が時折見られる。この先生が例を挙げていたの

は、例えば、日本的労使関係とか日本的雇用慣行という言葉、日本の学生はだいたいわかるんだけど、留学生の方々はわからないということで、そこで理解がとまってつまづいてしまってるというようなものでした。

それから、情報処理入門の担当の先生は、ワープロですけれども、日本語入力の際に難しい漢字ですね。これは日本人でもときどき時間がかかるんですけれども、難しい漢字を入力することが難しいというような回答がございました。これが、基礎ゼミ担当の先生方の自由記述欄ということです。【スライド⑦-12】

ただ一方で、留学生は、勉学意欲が高いというようなことを言ってくれております。もっと難しい高度な内容を勉強したいと、日本人学生はのんびりしているんですけれども、それよりはもっと意欲的にガツガツ勉強したいという留学生もいるということです。先ほど言ったように、出身国と比較するようなテーマに取り組んでいて、日本人にも非常に効果を与えています。それから、コミュニケーション能力が高い留学生もいるというようなことで、これはプラスの評価のところ集めました。【スライド⑦-13】

次は低単位留学生からの聞き取りについてです。これはかなり丁寧に行いました。時間をかけて、場合によってはそこを指導の場として行いました。やはり長い文章を書くのは大変だということとか友達をつくる機会がない。バイト先の知り合いが相談相手だというようなこともありました。日本語は話せるんだけど、ただやっぱり難しい専門用語が理解できない。それから、これは結構、重要なんですけれども、サークルには所属したけれども脱退したと。サークルに入って日本人と親しくしようとしたんだけど、なかなかうまくいかなかったというので脱退したというのがありました。それから、ここは書きませんでした、サークルに入る時期は4月ですね。4月の初めにサークルの勧誘がありますので、そこでサークルに入れるといいんですけれども、留学生の方は日本のそういう慣行を知らないで、そのタイミングでサークルに入らない。機会を逸してしまい、サークルに入りたかったけれども入れなかったという声をあとで聞きました。あと、アルバイトをしてしまったというのもあります。それから、韓国の留学生ですけれども、あとはやっぱり非漢字文化圏の留学生の人は漢字に苦労しているということがよくわかります。あと、専門のゼミに落ちているということです。【スライド⑦-14】

これらの課題について、経済学部がどういう対応をしているかについて触れて

おきます。まず、留学生についての状況は、全ての教員で情報共有するようにしております。それから基礎ゼミナールの担当者会議とか情報処理入門の科目の担当者会議というものを定期的に関開いておりますけれども、そこで、留学生に留意配慮しようということを確認しております。

それから、2018 年度から始めたんですけれども、留学生懇談会を開催いたしました。これは、経済学部と大学院にいる留学生時全員に呼びかけまして、教員との懇親会を開きました。夜、食事と飲み物を出して、アルコールは出してはいけないということだったので無しですが、自由に意見交換をして、何が困ったことがあったらいつでも先生に相談できるようにということをやりました。これは非常に評価が高かったです。

それから、現在始めているのが、日本人学生による交流支援グループを組織化するという事です。いろいろな他学部、他大学のチューター制度とかバディ制度とかを研究したんですけれども、一対一で、マン・ツー・マンで行うよりは、日本人学生のグループと留学生とグループ交流のほうが効果的ではないかということになりまして、現在、この秋学期から試行的に始めました。この 4 月から本格実施をするということにしております。【スライド⑦-15】

今後の課題ですけれども、きょうお話を聞く中で別の課題も浮き上がってきましたが、まずは、経済学の専門的な授業についていけるようにしなければいけないということがあります。経済学日本語、つまり、日本語での経済学の専門用語。これを 2 年次に進学する前に教えることができないかということがございます。これは少し今、検討中です。それから、やはり文章が書けないといけないということで作文能力をどうやって身につけさせるかということです。それから、非漢字圏の出身者に対する漢字教育をどうするかということです。

それから、専門ゼミに入らない留学生が多いのですけれども、専門ゼミへの所属率を向上させる必要がある。それから、特定の専門ゼミ、きょういらっしゃるっている厳先生のゼミなんですけれども、留学生が集中する傾向があります。この先生だと中国語が通じるとか、そういう理由で集中する傾向があるのですけれども、それをどういうふうに改善するかというようなことがあります。

ただ、やはり入学時までには日本語能力をどの程度求めたらよいのかということは、私たちも現在、試行錯誤しています。入学して授業について行けないといけないと思う一方で、多くの潜在能力を持った優秀な留学生に来てほしいという気

持ちもあります。ですから、その点をどういうふうにバランスをとっていくのかということが経済学部にとって非常に大きな課題になっているということでございます。

以上です。ありがとうございました。【スライド⑦-16】

○丸山 ありがとうございました。



## 【スライド⑦-1】

立教大学 日本語教育センターシンポジウム2018.1.26.

## 経済学部における留学生 の受け入れ状況

経済学部長 菅沼隆  
博士（経済学）、社会政策

## 【スライド⑦-2】

### 立教大学経済学部の紹介

- 1907年創設：日本で最も古い経済学部の一つ

日本の経済学をリードしてきた。

- 3 学科体制

- 経済学科（330名）：理論、歴史、分析
- 経済政策学科（175名）：政策研究
- 会計ファイナンス学科（175名）：金融、会計、経営

## 【スライド⑦-3】

## 経済学部・経済学研究科の留学生 入学状況

年度	学部	大学院
2014	2	4
2015	1	3
2016	9	4
2017	31	3
2018	24	3

3

## 【スライド⑦-4】

## 経済学部の一年次教育（全員履修）

- ・基礎ゼミナール（春・秋）：20人程度。社会科学の文献を輪読し、報告・討論。自分でテーマを決めて、論文執筆（8000字程度）、プレゼンテーション。論文集を作成。
- ・情報処理入門（春・秋）：コンピューター教室を使用。情報倫理、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの修得、統計分析。
- ・経済学（春・秋）：学科単位で授業。経済学の基礎を学ぶ。2年次以降の専門教育に導く。

4

【スライド⑦-5】

## 2017年度の留学生対応

- 学部「国際化推進委員会」  
で継続的に協議
- 成績調査
- 留学生面接
- 担当教員アンケート

5

【スライド⑦-6】

## 成績調査（1～2年生）

- 低単位修得者が一定数発生している。
- 学生全体の平均よりもやや低くなっている。
- 二年次春学期が日本人学生と比較して低くなっている。全般的に一年次より成績不良。
- 成績分布のばらつき・偏差が大きい。
- 低単位取得者は1名を除いてすべて男性  
（10名）

6

## 【スライド⑦-7】

## 低単位修得者全員から聞き取り

- a. 日本人の友人が作れない・少ない。
- b. 留学生同士のネットワークも弱い学生もいる。
- c. 相談相手がいらない場合が多い。
- d. 日本語の長文作文に苦労している。
- e. 講義科目の期末試験の論述式問題に苦労。
- f. 専門ゼミの面接に失敗して勉強意欲低下がみられる。

7

## 【スライド⑦-8】

## 教員から見た留学生の日本語能力(%)

	2017年	2018年
良好	60	45.5
普通	40	50
やや難あり	0	4.5
難あり	0	0
合計	100	100

8

## 【スライド⑦-9】

## 出席・欠席状況

出席状況	2017年6月	2018年11月
すべて出席	80.0	42.9
1～2回欠席	13.3	42.9
3回欠席	6.7	9.5
4回以上欠席	0.0	4.7
	100.0	100.0

9

## 【スライド⑦-10】

教員アンケート  
授業についていけているか？

	2017年	2018年
優秀・まじめて日本人学生により刺激を与えている	53.3	22.7
日本人学生と遜色ない	33.3	40.9
やや難があるがついていけている	13	31.8
困難を抱えている	0	4.6
ほとんどついていけない	0	0

10

【スライド⑦-11】

# 基礎ゼミナール担当者の所見

- ほとんどの教員は一般学生と区別せず対応。全体として問題を感じていない教員がほとんど。
- 日本語会話に難ありは少ない
- 他の学生にプラスの効果を与えている事例もある。高い評価を与えている先生もいる。
- 日本語の長文作文に苦勞している。秋学期の小論文完成の際に、日本語が正しく書けずに指導に苦勞した経験。
- ※注意 教員からは留学生が抱える困難がよく見えていない可能性がある。

11

【スライド⑦-12】

# 基礎ゼミナール担当者の自由記述（日本語能力）

- 「日本語にクセがあり細かく添削した」
- 「日本語の作文能力にはかなりの個人差がある。日本語能力があまり高くない留学生は8000字程度のレポートを正しい日本語表現で書き上げるのは難しいのかもしれない。こちらも表現を添削はするが、すべてをきちんと修正するのは困難」
- 「テキストは理解しているが、普段聞きなれない語彙などに対し戸惑う場面が時折みられる。
- （情報処理入門担当教員）「日本語入力の際に、難しい漢字を入力することが難しいようです」（複数）

12

## 【スライド⑦-13】

## 基礎ゼミナール担当者の自由記述②

- 「留学生は総じて意欲が高く、発言内容はきちんとしていることが多いが、発言自体はそこまで流暢にはできないケースも多い」
- 「より高度な内容を吸収する能力（または要望）もある」
- 「出身国と日本を比較するようなテーマに取り組んでおり、日本人受講生により刺激をあたえています」
- 「コミュニケーション能力が高く、グループ発表の時などにはリーダーシップを発揮して仕切ってくれています。」
- 「平均的な日本人学生より優秀」

13

## 【スライド⑦-14】

## 低単位留学生からの聞き取り

- 「日本語は不得意ではないが、長い文章を書くのが大変」「友達を作る機会が少ない」「バイト先の店長やスタッフが相談相手」
- 「日本語は流ちょうに使える。講義の内容も理解できる。ただ、難しい専門用語は理解できないことがある。」
- 「サークルには一度所属したが、脱退した。サークルでも友達ができなかった」
- 「現在は、週28時間くらいアルバイトして、生活費を稼いでいるので、勉強に熱心ではなかった。」
- 「漢字が難しい。試験の時に漢字の読み書きで非常に苦労している。」（韓国）
- 専門ゼミの選考に落ちた

14

【スライド⑦-15】

## 経済学部への対応

- 全教員による情報共有
- 基礎ゼミナール担当者会議、情報処理入門担当者会議において「留意・配慮」を確認
- 留学生懇談会の開催（2018年5月）：経済学部・経済学研究科の留学生全員と教員との懇親会。食事、飲み物。自由に意見交換。好評価
- 日本人学生による交流・支援グループの組織化
  - グループによる支援 マンツーマンではない（チューター、バディ制度ではない）。
  - 国際化推進委員の教員のゼミから開始
  - 2018年秋試行。2019年4月本格実施。

15

【スライド⑦-16】

## 今後の課題

- 経済学日本語の授業：2年次進学前に、日本語の経済学専門用語を習得するプログラムの開発
- 作文能力の向上
- 非漢字圏出身者に対する漢字教育
- 専門ゼミへの所属率の向上
- 特定の専門ゼミに留学生が集中する状態の改善

16